

社会福祉法人 友愛十字会

ゆうあい

題字 初代総裁三笠宮崇仁親王殿下

2020
1・1
No.50



『令和の虹』

主な記事

- 新年のご挨拶 総裁 瑤子女王殿下
- 機関誌「ゆうあい」第50号までを振り返って 法人本部参与 石井 晃
- 法人栄養士の団結で生まれた「統一献立」 砧ホーム 管理栄養士 雨宮 和美
- QOL向上に携わる活動の情報共有に学ぶ! 社会福祉法人友愛十字会監事 高梨 智弘
- 勤続20年を迎えて 友愛園 主任看護師 八木ひろみ
友愛園 副主任生活支援員 橋本 博之
- 「障害保健福祉センター」「児童発達支援センター」及び「障害者支援ホーム南麻布」の指定管理者選定結果について
..... 港区立障害保健福祉センター センター長 江原 徳至
- 友愛荘の移転改築が正式決定しました!! 友愛荘 園長 藤田 康子
- 令和初の合同運動会を終えて 世田谷更生館 指導部長 吉岡 一樹
- いちについて 東京聴覚障害者支援センター 支援員 山城 慶恵
- 施設紹介 コーポ友愛 友愛デイサービスセンター
- H. C. R. セミナー登壇 砧ホーム園長 鈴木 健太
- 国賓のご視察 砧ホーム園長 鈴木 健太
- 産休・育休について田口施設長に聞いてみました 男女共同参画委員会 田村 英治
- 善意のかずかず
- 職員異動

『新年のご挨拶』

社会福祉法人友愛十字会

総 裁 瑠子女王殿下



友愛十字会の総裁を務めさせて頂いております、寛仁親王の次女の瑠子でございます。未だに、このような執筆依頼というものに慣れることも、上手くなっている自覚もないので、この冊子を読んで下さっている皆さまには申し訳ない気持ちでいっぱいです。そして、改めて文才もあった父の跡を引き継ぐということは、身の引き締まる想いです。

皆さま、2020年を迎えて、どのように過ごしていこうと思わ

れていらつしやいますか？明確な目標がある方、まだ考えている最中の方、様々いらつしやると思いますが。2019年は私にとって、心穏やかな日々というよりは常に張りつめた緊張状態にあるというのが大半だったように思います。そのような中で、特にラグビーの日本代表選手には力を貰いました。例えば、感動であったり・助け合うことの大切さであったり・地道な努力というものは必ず報われる！ということであったり、日本中・世界中に体现をしてくれたと感じています。又、子どもたちから大人たちまであらゆる年代で、一つでも心に響くものがあつたのではないかと思いました。きっとラグビーが大好きであった父も共に喜んでくれるはず。そして今年、オリンピック・パラリンピックが日本で開催をされます。ここでも様々な感動や喜び、時に悔しさを皆さまとともに、分

ち合うことが出来るのではないかと確信しています。

さて、個人の今年の目標？考えていることとしましては、いつも心で思っていることではあるのですが、絶対に悔いの残るような行動や言動はしない！ということと、自分の気持ちに正直になつて、どんなことでも、やろうと思つたことや思えることに関して、まずは即行動に移す！ということ。私には、行動派であつた父の血が流れているはずなのですが、どうも決断するまでに少々時間がかかる傾向があるものから、しっかりと自信を持つて、周りを気にし過ぎずに過ごしていきたいと思つています。勿論、人に迷惑をかけないというのは大前提ですが、私には、この立場である以上は皇宮警察の側衛官や警視庁の警衛課の担当が日々付いてくれています。彼らは、私の担当になりたいたいと思つて付いているわけ

ではないですし、昔に比べたら年齢差はほとんど無くなりましたが年上ですし、同性ではありません。物心がついた頃から、父に【皆、家族だ！】と言われ育つてきました。肩書き上やある場面においては、上司と部下のような関係性でいる必要があります。いつも難しいと思うことや辛いと思うこともあるわけですが、それは彼らも同じ思いをしているはずなので、彼らを困らせることのないように、彼らに応援して貰えるような態度や行動をするということ。常に忘れることなく過ごしていきたいと思つています。そして、これは目標というよりは、永遠の課題になつてしまいましたが、彼らに私の担当に付いて良かったと、ふとした時に思つたり・離れたとしても、心の片隅には、ずっとあるような存在になることです。目標や願いは叶えるもの。皆様、一緒に前に進みましょう。

機関誌「ゆうあい」 第50号までを振り返って

社会福祉法人友愛十字会
参与 石井 晃



多くの企業や法人が事業を展開する上で、その活動内容や事業報告等を多くの人々に伝えるために発刊しているのが機関誌です。友愛十字会の機関誌「ゆうあい」が第50号を迎えます。当法人の設立は昭和25年ですから、当初から発刊されていたれば当然50号では収まりませんが、「ゆうあい」は昭和59年に再発刊されたものです。再発刊当時に携わった者として、その「いきさつ」等について振り返ってみたいと思います。

当法人設立当初、事業をPRす

る手段としては、事業内容や役員等を印刷したパンフレットのみでしたから、多くの方々に法人の活動等を知って頂くことはあまりできていませんでした。昭和41年に機関誌「友愛だより」が発刊されてやっと法人のPRができるようになりました。しかし残念ながら、「友愛だより」は第3号からしか資料として残っていませんし、それも昭和47年11月1日付の13号までで中断されていました。大戦後5年目に財団法人として設立された福祉法人ですから、経済的にも貧しく、機関誌の編集も養護老人ホームの指導員が職務の合間に行うという状況では、当時の福祉施設としてはやむを得なかったと思います。

昭和49年7月に当法人の総裁が、初代三笠宮崇仁親王殿下から寛仁親王殿下にご交代なさいました。第二代総裁の寛仁親王殿下は法人に機関誌がないことをご憂慮

になり、再発刊するための設置委員会結成をご指示され、常務理事以下数名が宮邸で殿下を中心に検討を重ね、昭和59年9月25日付で「ゆうあい」が再刊されました。

再刊第1号の表紙は、題字を初代総裁三笠宮崇仁親王殿下にご揮毫頂き、巻頭言は、「発刊のごあいさつ」を寛仁親王殿下ご自身が、「友愛十字会の機関誌を発刊することになりました。再刊日は会の創立された日を第1号とする事にしました。閉鎖されがちな障害者問題を健常者と共に生きていくという正しい意味での福祉活動に友愛十字会全体が取り組み始め、ほぼ成功しつつあります。今回の機関誌再刊が、前向きで明るい福祉活動の状況を皆が今以上に理解する場となると共に、外部の人々に我が友愛十字会の正しい姿を理解していただく場となる事を期待しています」とご執筆なさい

ています。

その後も殿下は毎号巻頭言をご執筆下さっていました。御原稿を依頼する際、宮家の宮務官から「御原稿の締め切りはかなり余裕をもって依頼するように」との注意を頂きましたが、実際にはお願いしてから2週間も経たずに御原稿が届いていました。殿下のご執筆は平成23年11月30日の第39号まで続きましたが、第40号は殿下ご薨去の追悼号になってしまいました。その後の第41号からは第三代総裁にご就任頂いた瑤子女王殿下が後を引き継がれて現在に至っています。

このように故寛仁親王殿下のご発意とお力添えで再刊された「ゆうあい」ですから、第50号を迎えることに感慨一入です。今後ますます友愛十字会の事業発展と共に継続していきますよう心より強く望み、内容の充実を大いに期待しています。



平成22年 ハワイ料理「ロコモコ丼」

「統一献立」は毎年法人の創立記念日に、法人10施設で同じ献立の昼食を提供する企画です。平成22年の創立60周年から提供を開始し、昨年の69周年で10回の開催を継続することが出来ました。

法人栄養士の団結で
生まれた「統一献立」
砧ホーム
管理栄養士 雨宮 和美



平成24年 ロンドンオリンピック五輪に見立てた「ロールサンドイッチ」

きっかけは、法人栄養士会議で各施設の栄養士計6名が集まった際、普段ばらばらに仕事をしている我々が、同じ法人で働く栄養士として一致団結して出来る企画はないか、と考えたことでした。初回の「統一献立」では、法人の設立に尽力して下さったハワイ在留邦人の方々に敬意を表し、「ハワイ料理」をテーマに「ロコモコ丼」など現地の郷土料理を提供しました。その試みは好評を得て、理事長賞を頂くことが出来ました。



色々な「ゆうあいくん」

その後もその年その年の時事に因んだ事柄などを献立に反映させて実施してきましたが、平成25年からは永年勤続者の昼食会にも同じものを提供して欲しいとの依頼を受け、より豪華で華やかな「祝い膳」を提供するようになりました。そして平成26年、ついに我が法人の愛すべきキャラクター「ゆうあいくん」が登場します！ある時はチキンライス、ある時はデザートに、様々な形で料理の中にゆうあいくんを紛れ込ませ、皆様により親しんで頂けるよう工夫しました。



令和元年「洋風お祝い膳」

普段は各施設1人職種の栄養士ですが、この企画に取り組むことで法人他施設の給食の状況等も知ることが出来るようになり、より交流が深まりました。今年はいよいよ法人70周年を迎えます。節目の年ということでも「統一献立」にもご期待・ご注目が集まっていると思うとプレッシャーも感じますが、利用者の皆様はもとより、提供に関わる職員の方々にも喜んで頂けるようなお食事を用意できるよう、法人栄養士一丸となって頑張りますので、どうぞご期待ください！

「障害保健福祉センター」、
「児童発達支援センター」及び
「障害者支援ホーム南麻布」の
指定管理者選定結果について
港区立障害保健福祉センター
センター長 江原 徳 至



平成30年11月に、港区から平成32年度からの10年間、「障害保健福祉センター」（以下、「港センター」という。）、「児童発達支援センター」及び「障害者支援ホーム南麻布」の事業運営を行う指定管理者公募要項が公表されました。それを受けて、当法人として3施設全てに応募することを決めました。

実は、公募要項が示される前から施設長、主任及び副主任で構成するプロポーザル・プロジェクトチームを立ち上げていました。平成30年6月からは、3施設ごとにグループ編成をし

て申請書作成の準備を始めました。メンバーは通常の業務後や土曜日・日曜日にも準備作業を行っていたのです。入所施設である「障害者支援ホーム南麻布」については、全くの新規事業なので知識が乏しく指定基準の勉強、他施設への視察等、他の2事業より準備をすることがたくさんありました。大きな苦労を伴いましたが、学ぶことも多く、職員の意識向上にもつながり有意義な日々だったと思います。

平成31年6月、港区から選定の結果が発表されました。「港センター」及び「児童発達支援センター」については当法人が指定を受けましたが、「障害者支援ホーム南麻布」については、指定を受けることが出来ませんでした。大変残念でしたが、この選定結果を踏まえ、2つの指定管理事業に向けての準備作業を早速始めました。その主な作業は次のようなものです。
ア「児童発達支援センター」

については、こども療育パークを基本に事業を進めていくが、事業拡大に伴い理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、心理士、支援員等の各種専門職の30数名を新たに採用する。

イ「港センター」で新たに実施する「放課後等デイサービス事業」は、重症心身障害児と医療的ケア児を対象とするため、利用者の支援方法、職員の配置・シフト体制、職員確保方策等の事業運営方法についての検討を行う。

ウ 既存事業にも見直しの必要があるため、同時にそれらの準備もしていく。

今後、令和2年4月に円滑に事業がスタートできるように、手際よく作業を進めていきたいと思っています。

港センターは、今回の指定管理事業に選ばれたので2期目となります。そのため、1期目（平成21年度〜31年度）の経験を活かして

つ、港区、利用者家族の方々、地域の皆様との連携を今まで以上に図りながら、区内の他の民間事業者のモデルになるよう努力していきたいとの思いを強くしています。

最後に、今回の申請に当たり、指定管理者申請に係る行政側審査と法人側申請の両方について、豊富な経験を有する山崎敏理事から多大なご指導を頂いたことに感謝しています。心からお礼を申し上げます。



1階 児童発達支援センター

友愛荘の移転改築が

正式決定しました!!

友愛荘

園長 藤田 康子



昭和49年11月1日に開設以来45年を経過し、大雨が降ると居室に雨漏りし配管からの水漏れも頻繁となり老朽化が深刻な状況となっており、昨年の台風19号でも町田市上空を通過するという予報と共に警報が続出し、朝になつたら周りの景色が一変しているのではないかと不安の中、どんな状況になるのか想像がつかず緊張の一晚でしたが、おかげさまで大きな被害もなく済みました。

友愛荘の改築については約20年前から検討され、歴代の施設長もそれぞれ本部や町田市と協議してきた経過がありますが、改めて平成28年6月から町田市と相談を開

始しました。

町田市は特別養護老人ホームが24施設あり、ほぼ充足したとして第7期高齢者福祉計画には施設整備の計画はないとのことでした。

現在82床から110床への増床を認めてもらおうべく、いきいき総務課施設整備係と協議を重ね、平成29年度の町田市高齢社会総合計画審議会で承認され第7期高齢者福祉計画に28床の増床が認められ、平成30年8月に「移転及び増床を伴う改築」が承認されました。

現在の場所は敷地の北西側傾斜地が特別警戒区域に指定され、建て替えをするための要件を満たさないため、別の土地を探すこととなりました。何力所か候補地を紹介していただきましたが、幸いにも町田駅から徒歩圏内に土地が見つかり、移転改築に向けた協議がスタートしました。

理事会においては、平成29年11月移転改築及び110床への増床が意思決定され、平成30年3月進捗状況報告、今後の予定、平成30年5月定期借地における地主様との合意報告、設計事務所の随意契約、

平成30年11月都への老人福祉施設整備事業協議書提出内容報告、平成30年11月進捗状況報告、設計図面変更、令和元年5月進捗状況報告、令和元年9月入札参加条件、予定価格、最低制限価格の決定、解体に伴う基本財産の処分、福祉医療機構からの借入額承認と度重なるご指導及びご審議をいただきました。

令和元年8月28日付けで都から内示を受け、移転改築が正式に決定しました。その後、11月15日に監事、理事、評議員、町田市に立会いをいただき、入札が行われ建設は株式会社富士工に決定し、11月27日に契約の運びとなりました。11月28日には地主様と52年の一般定期借地権設定契約が取り交わされ、12月9日に町田公証役場において調印が行われました。12月3日には地鎮祭が執り行われ、工事が着工いたしました。

施設の改築は法人としても約30年ぶりのことで、理事の皆様をはじめ多くの方々にご助言を頂きながら本部とともに取り組んでおります。

新しい友愛荘は従来型の一斉ケ

アからユニットケアに転換することを踏まえて、ユニットケア研修や施設見学に取り組み、ユニットリーダー研修も3名が受講しました。これまで漠然としていた新施設の内容も具体的に決めていかなくはなりません。人材確保も大きな課題ですが、法人としても取り組んでいただけることはとても心強く感じています。

今後も研修や施設見学を繰り返しながら新しい施設へのイメージを膨らませ、利用者の介護に万全を期するとともに、職員の人達皆が希望と楽しみを持てるように準備をしていきたいと思っております。

オープンは令和3年4月です。



地鎮祭の様子

令和初の合同運動会を終えて

世田谷更生館

指導部長 吉岡 一樹



去る、令和元年9月29日(日)、大会実行委員長の瑠子女王殿下にご臨席賜り、令和の時代を迎えて初の合同運動会(第44回)が世田谷区総合運動場体育館で開催されました。

残念ながら学習院大學應援團の皆様は、学校行事のため欠席となりましたが、今回も世田谷区のご後援により、14団体、合計約450名の皆様にご参加いただき、盛大な運動会となりました。また、世田谷区社会福祉協議会のご協力により、砧地域にお住まいの皆様、約20名の方にもご参加いただきました。

合同運動会は、故寛仁親王殿下

のご提唱されたモットー「障害のある人もない人も、高齢者も一緒に秋の一日を楽しむ」を基に開催致しておりますが、前回の合同運動会実行委員会において、そのモットーを踏まえた上で毎年テーマを決めて開催するとより参加団体の連携が深まるのではとのご意見が挙げられ、「ハイタッチ♪」をテーマに、そして今回の合同運動会では、「ハイタッチ♪ありがとうをそえて♪」をテーマとさせていただきます。

競技では、今回も日本体操研究所長の長野信一先生に審判長をお引き受けいただき、今年開催の東京パラリンピックで実施が予定されているボッチャの合同運動会版「ボッチャチャチャ」をプロMC御代田悟さんのご協力により実施したほか、バルーンファイトや公益社団法人日本スポーツチャンバラ協会皆様のご協力によるスポーツチャンバラ等、8種目を実施し、手に汗握る戦いが繰り広げられました。

アトラクションでは、毎年参加者が楽しみにされている皇宮警察音楽隊の皆様による演奏に始まり、純国産ボイスの演奏と5団体対抗による大縄跳び、YOSHISANによるステージと盛りだくさんの内容で、特に、大縄跳びでは、ボーイスカウトとガールスカウトの子供達が日本体育大学社会体育研究会や慶應義塾大学ライチウスの学生、皇宮警察学校の皆様など大人と真剣に競い合い、敢闘賞として瑠子女王殿下からメダルの授与を賜る場面での嬉しそうな笑顔がとても印象的でした。

合同運動会は、従来からご参加いただいている団体皆様のほか、数年前から、ヴォイスアクトプロジェクトワイの古川さんにはアトラクション後半部分をご担当いただき、NPO法人ジャパンスポーツコミュニケーションズの米司さんと鈴木さんには、合同運動会全体のアドバイザーや用具提供にご協力をいただくなど、多くの皆様にご支援いただいております。

また、今回は、初の試みとして合同運動会の魅力を皆様にお伝えすることを目的に、映画監督で映像クリエーター鈴木研一郎さんのご協力により、記録用の映像を撮影させていただきました。

合同運動会に参加させていただくようになり早いもので十余年が過ぎましたが、故寛仁親王殿下のご提唱されたモットーにあるとおり、私は「誰でも参加でき、楽しむことができる」こそが他の運動会にはない合同運動会の大きな魅力だと考えています。この歴史と伝統ある合同運動会は、今年、第45回を迎えます。まずは第50回を目標として、大会実行委員長の瑠子女王殿下にご指導を賜りながら、今後も魅力ある合同運動会を開催させていただければと考えておりますので、引き続きご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



いちについて

東京聴覚障害者支援センター
支援員 山城 慶恵



「いちについて：よいいどん！」
幼少期、学生時代、地域の運動会等々・・・運動会といえはこのフレーズを思い浮かべる方も多いのではないのでしょうか。

板橋区では年に一度、区内の障害者施設や関係団体を募りスポーツ大会が開催されています。センターも徒歩15分の区立運動公園に、利用者と希望するOBの方と一緒に毎年参加させていただいています。

今回は39回目の開催で24の施設及び団体、ボランティア等の関係者も含め約500名程の参加がありました。主催者側のご配慮もあり、いつも板橋区聴覚障害者協会

さんと、板橋盲ろう者の会さんと連なってテントを配置してくれています。そして情報保障として、聴覚障害者関係のテントの前には手話通訳者が一人ひとり立ってくれます。よく運動会では「もう少しでゴールです、頑張ってください！」、「今〇〇チームが追い上げていきます」といったアナウンスが流れますよね。ですが、聴覚障害者は当然それが聞こえませんし、そもそもアナウンスされていることすら知らないかもしれません。手話通訳者がそういった場の状況も通訳してくれるので、センターの利用者も会場内の様子を知ることができ、目で見えていること以外も情報を得ることができるようになっています。今後、地域の行事ではこのように手話通訳が付くことが当たり前になっていくと良いなと思っています。

センターでは利用者の高齢化により、年々参加できる利用者が減ってきているのが現状ですが、楽しみにしている方もいます。あ

る利用者は、センターに入所したばかりの頃は体調がかなり悪く、歩くこともままならない状態だったのですが、現在は訓練を重ね短い距離であれば杖なしでも歩行可能となりました。その方が「スポーツ大会に出たい」と参加を希望し、さらには当日「借り物競争に出たい」と自ら一所懸命競技に参加し、ボランティアさんと一緒に笑顔でゴールしたときには思わず感動してしまいました。このような例もあるので、今後も参加したいと希望する利用者がいる限りは参加していきたいと思っています。

センターの利用者は全国から来られています。様々な事情で生まれ育った地域に帰れないという方もいます。また当たり前のようにはまわりの人たちと協力し合って生きてきた方も多いとは言えません。

“聞こえない”という障害は、私たちのように、当たり前に地域の情報が入ってくるわけではない

からです。せめてセンターで生活している間は、志村という地域、広くいえば板橋という地域の人として、地元の方々とながって生きていけるよう、今後も地域の行事には利用者と一緒に積極的に参加をしていく予定です。

センターで“聞こえない”という仲間と共に生活を送り、地域の行事に参加し、色々な人と触れ合って生きて行くことはまさに、地域と共に生きて行くということの「いちにつく」始まりなのかもしれません。



「めざせゴール！」

福祉ホーム コーポ友愛について

コーポ友愛

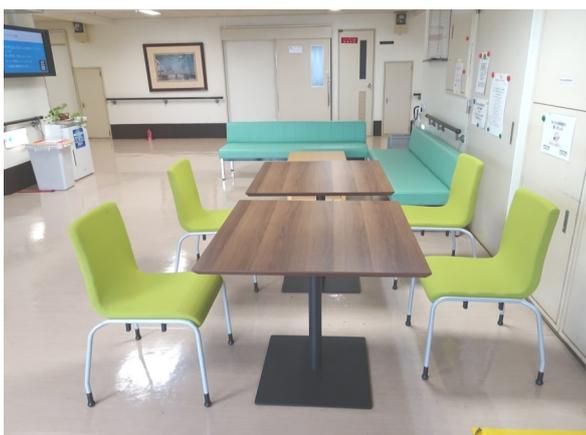
生活支援員 宮下 恒一

コーポ友愛は、平成3年8月に設立された世田谷施設内の本館5階にある福祉ホームです。この福祉ホームという名称ですが聞きなれない名称だと思えます。それもそのはず、都内でも十数件ほどしかない施設です。聞きなれないのも当然なのかもしれません。福祉ホームとは、住居を必要としている障害をお持ちの方に対し、低額な料金で居室等をお貸しして、日常生活に必要な支援を提供する施設のことをいいます。

コーポ友愛は主に身体障害者の方を対象にしておりますので、部屋の中には段差もなく移動が容易であり、トイレへも車椅子のままで行くことができます。単身用16部屋、世帯用2部屋があり定員は20名です。各居室にはエアコンと電気調理器が設置されています。世帯用の部屋には浴室も完備されており、単身部屋の方には共用の浴室を利用していただいています。その他洗濯機や乾燥機を設置しており、時間内であれば無料で利用いただけます。コーポ友愛を利用していただくには原則世田谷区民で18歳以上の身体障害者手帳

をお持ちの方で、夜間や休日は職員が不在となるため、基本的にお一人で生活できる方が対象となります。が、入浴や家事支援など生活の一部に関して社会資源を活用しながら生活していただける方が対象になります。

設立してから30年近く経過しているため、ホーム内の備品も老朽化が目立ち始めておりますが、このたび尚友倶楽部様よりご寄付をいただきました。おかげで、共用部の応接セットを購入することができました。清潔で華やかさも増すことで入居者の方々の交流がより進んでいくものと思われまします。この場をお借りしてお礼を申し上げます。本当にありがとうございます。



尚友倶楽部様からのご寄付により整備されたロビー

YOU&I

あなたも私も健やかに

友愛デイサービスセンター

センター長 木村 浩二

東京都の民間社会福祉施設設備改善整備費を受け、別館2階にあった事業スペースを友愛園1階に移設してから、早いもので1年半が経過しました。毎日のご利用者の迎えと送り出し、別棟にある浴室への移動、食堂からの食事の運搬など、エレベーターの使用をはじめとする非効率な業務動線が改善され、より安全・快適なサービスの提供が可能となった他、業務効率率が向上したことにより生み出された時間は、一層手厚いご利用者支援や職員が個々に担当する業務消化へ充足され、実効性の高い業務マネジメントに繋がっています。また、重度の身体障害者を持ったご利用者が多い当センターでは、有事の際の2階からの避難態勢も課題のひとつでしたが、移設後は目前の中庭へ迅速に避難できるようになり、危機管理の点からも大きな改善となりました。

さて、当センターは痰の吸引や胃瘻の注入など医療的ケアの必要な方にもご利用いただいております。看護体制の安定化は欠かせません。しばらくの間、看護体制の不安定な状況が続き、皆様には大変ご心配をおかけしていましたが、看護師はもちろ

ん生活支援員も喀痰吸引や胃瘻の注入などのケアを担い、医療的ケアを組織的に支える体制も整ってまいりました。

これからも、医療的ケアを提供する数少ない施設としての社会的責任を果たし、医療的な支援が必要な方のみならず、当センターに集うすべてのご利用者の安心安全な通所生活を支えられるよう、職員一丸となって取り組んでまいります。

最後に一言・・・職員が笑顔でなければご利用者も笑顔になれません。職員にとっても、働き易く笑顔の絶えない施設、そして、職員一人ひとりが自己研鑽に励み、プロ意識を持ってサービスを提供できる組織を目指してまいります。今後とも皆様のご支援・ご協力をよろしくお願いたします。



ハロウィン仮装パーティー

H・C・R・セミナー登壇

砧ホーム

園長 鈴木 健太

元年 9 月 25 日 (水) ～ 27 日 (金) に国際展示場で開催された H.C.R.2019 (第 46 回国際福祉機器展) は、主催者 (全国社会福祉協議会 / 保健福祉広報協会) の発表で累計来場者数が 105,675 人と今年も多くの人で賑わいました。

私、砧ホームの鈴木健太も、初日に行われた H・C・R・セミナー「福祉施設の実践事例発表」役立つ、活かせる工夫とアイデアへ高年齢者施設・事業所における工夫事例」に登壇者として参加し、「福祉機器と、共に生きる」と題して、介護ロボットや介護リフト、ICT 機器の活用について、施設での導入や活動の工夫を報告して参りました。

質疑応答を含め 30 分弱でした

が、聴講者からは「介護ロボットを導入したいが、法人内部で伺いを立てるのに、どのように費用対効果を伝えたいのか」といった核心的な質問も飛び出し、有意義なセッションとなりました。

登壇の様子 は、大会司

(<https://www.hcr.or.jp/exhibitions/exhibition2019>) に

も掲載されておりますので是非ご覧ください。



セミナーに登壇する鈴木健太園長

国賓のご視察

砧ホーム

園長 鈴木 健太

令和元年 10 月 22 日 (火)、「即位礼正殿の儀」が執り行なわれ、世界中から 186 ヶ国と 5 つの国際機関の代表者が参列したと報じられました。その翌々日の 24 日 (木)

の午後、国賓として来日されていたチェコ共和国のアンドレイ・バビシュ首相のモニカ・バビシュヴァー夫人が、砧ホームをご視察されました。

モニカ夫人は、濃褐色のロングのレーザーコートの出で立ちで、ファーストレディーの気品とオーラに満ち溢れておられました。ロボットを活用した介護にご関心がお有りで、話題のマッスルスーツを体験され見守り機器もご覧になりましたが、「連れて帰りたい！」と一番のお気に入りにはコ

ミュニケーションロボットの“パロ”でした。施設内の移動では利用者一人ひとりとコミュニケーションを取りながら歩きましたが、中には感激して涙する方も見られました。施設に居ながらにして、この様に海外の要人とも交流ができる事に、感謝の気持ちを新たに一日となりました。



“パロ”をお気に召しのモニカ夫人

産休・育休について
田口施設長に聞いてみました

男女共同参画委員会
委員 田村 英治
(みなとワークアクティ施設長)



こども療育パオ
施設長
田口美登里



みなと
ワークアクティ
施設長
田村 英治

男女共同参画委員会は、女性も男性も働きやすい、子育てや介護などと両立できる職場環境を創っていくと活動しています。

今回は産休・育休明けの職場復帰について考えたいと、港区立障害保健福祉センターこども療育パオの田口美登里施設長にインタビューをおこないました。

田村 パオの産休・育休からの復帰率が100%と聞いたのです

田口 はい、これまで10人の職員が本当ですか。

田村 が産休・育休を取得し、全員復職しています。中には夫の転勤などで退職した職員もいますが、2人目の出産をした職員もいます。

田村 ちなみにですが、田口施設長も産休・育休を取得したと聞いたことがあります。田口施設長が産休・育休を取得した頃と、何か大きく変わったことはありませんか。

田口 私の時には育休がありませんでした。

田村 では、お子さんはどうしたのですか。

田口 産後3ヶ月で復職したので無認可でしたが子どもを保育園に預けました。現在は病児保育などありますが、こどもが急な病気になった時は義理の父母がみてくれたので助かりました。

田村 パオでは、産休・育休から復職した際にはどのような配慮がありますか。

田口 復職したほとんどの職員は時短勤務の制度を利用しています。復職後1年は6時間勤務、2年目は7時間勤務

田村 復職しましたが、1年で退職することになりました。原因は他の職員の対応が冷たかったからとのことでした。

田村 本人に対しては配慮してきましたが、その他の職員に対して十分な配慮ができてなかったことが原因だと考えました。

田村 そこで、これまでお話しのとおり、本人も大切だけど、フォローする周りの職員への配慮が必要だと思いました。また、産休・育休明けは緊急の休みなど様々なことが起こります。それは仕方ないことで、次はあなたの番になるかもしれないと新しい職員にも伝えてきました。

田村 こうした活動をとおして、産休・育休や時短勤務は当たり前前という文化がつけられてきたのだと思います。

田村 産休・育休明けの職員もそれ以外の職員も皆大切にしてこそ、働きやすい職場になっていくのですね。ありがとうございます。

田口 指定管理が始まった頃、一人の職員が産休・育休から

田村 最後になりますが、これまで何か上手いかなかったことはありましたか。

田口 指定管理が始まった頃、一人の職員が産休・育休から

善意のかずかず

次の方々から利用者及び施設に対しましてご奉仕等を賜り、また、善意の金品のご寄贈を頂きましたことに対して、心より御礼申し上げます。
(令和元年7月1日〜令和元年11月30日)

奉仕活動

○世田谷更生館

秋山 一代
伊藤 幸子
伊藤 たけ子
大島 公子
金子 伸恵
木村 和江
黒田 真実
小林 健太郎
穴戸 美菜
原岡 美之
樋口 宏子
平岡 佳代
福永 春美
渡邊 砂代里

○友愛園
大久保 里美
高木 和子
成田 信子
箕輪 千賀子
慶應義塾大学
ライチウス会
天理教北多摩東部支部

○友愛デイ サービスセンター

岸井 豊子
久保山 由美子
小島 修治
関澤 勢津子
山川 敏江

○友愛ホーム

倉田 優佳子
末木 江津子
棚網 純子
馬場 武子
早田 由貴子
深井 真理子
山田 たき子
米田 恵子
アンサンブル3355
ガールスカウト
東京都第61団

碓幼稚園
碓幼稚園うたう会
天理教北多摩東部支部
モコモコ
学校法人山野学苑

○碓ホーム

新井 さくら
石田 淑子
市毛 昌子
加藤 律代
金子 美代子
岸本 幹子
工藤 清子
小藤 富子
小畑 あや
小原 祐子
小松 由紀子
小松 南々子
佐川 政江
島田 喜美枝
島田 陽子
島田 静子

○碓デイ サービスセンター

高橋 節
竹内 律雄
田島 利雄
館野 佳子
徳永 珠子
中川 圭子
濱口 郷子
濱田 慶子
藤本 寿美
横山 奈津子
渡辺 澄子
国立音楽学院
光寿会
頌栄教会
日本赤十字奉仕団
碓分団
藤の会
まほの会

市川 昭子
梅津 祥子
梅津 三千代
川口 栄子
鈴木 賢一
寿乃田 雅子
田村 正子
橋本 聰子
三浦 陽子
山下 康代
脇田 由美子
アイカネ
たんぼぼ
ブルームーン

○碓あんしん すこやかセンター

清水 校子
西多 法子
野崎 眞紀子
深野木 馨

○東京聴覚障害者 支援センター

青野 美重子
奥村 睦
小野 一美
金井 誠実
鈴木 智代
鈴木 美代
曾輪 信明
田代 恭子
名取 勇
早川 真由
道下 恵美子
山内 祐宜子

板橋区
聴覚障害者協会
板橋手話サークル
連絡会

○友愛荘

荒木 健
石川 信子
石原 信行
市川 美代子
河端 喜美子
佐藤 君子
志賀 順子
高沼 陽司
帖佐 由美子
長尾 サナエ

○港区立障害保健 福祉センター

松永 誠子
水谷 玲子
溝口 秀雄
宮坂 貴三江
矢口 里子
山本 美智子
吉本 京子
渡辺 喜美代
あひる座
熊野神社図師はやし連
図師婦人会
ぐるーぷ・そらまめ
寿々の会
日本ボーイスカウト
町田第3団
八王子寿太鼓
まちだかつぼれ/玉すだれの会
山崎友好会

○友愛園

植村 登美子
小林 和子
坂上 恵子
武田 敦子
田中 里奈
玉置 正子
二木 江津子
原 三智子
宮田 真
山口 博子
米田 ひさの

○本部

寄付金

秋山 隆子
秋山 由美子
浅山 恵子
石井 公子
石井 盛利
遠藤 修
大島 弘之
貝塚 康子
川上 敬子
木村 忠敬
鈴木 清美
内藤 壽昭
長島 日出男
濱口 武
松永 瑞静
松原 利枝
矢藤 広進
山根 竹夫
（有）新井電気工業所
（有）大蔵自動車商会
大蔵住宅自治会
大蔵東部町会
海藤工務店
柏・絆の会
法人格碓町自治会
碓町会
碓まちづくりセンター
碓コプラント(株)
コルカタ
砂井電気管理事務所
成城消防団第5分団
世田谷区 I K K 福祉協会

（次頁へ続く）

〈前頁より〉

世田谷区役所障害福祉担当部
世田谷区
身体障害者福祉協会

世田谷区立砧工房
世田谷区砧総合支所

世田谷区社会福祉協議会
祖師谷商店街振興組合
TMC通り商店街

日本赤十字奉仕団砧分団
ネオ・ハルト(株)
NPOはあと世田谷
フジ介護支援センター

ミニデいきぬた
(株)メモリード東京

山野小学校
山野小学校PTA

悠遊踊ろう会
リビングストア タカハシ
レイアロハフラスタジオ
和響太鼓

○世田谷更生館
大野 政孝

○コーポ友愛
谷垣 明美

(二社)尚友倶楽部

○友愛デイ

サービスマスター
岩田 幸夫

短期入所 二元ご利用者ご家族
○東京聴覚障害者
支援センター

飯田 柳
名取 栄根

志村城山町会

○友愛荘

鈴木 サヨ子
福島 良江
山崎 芳男
若林 進
安藤電気管理事務所
かつとはうすブリッチ
図師町内会
図師婦人会
忠生忠霊地区自治会
忠生四丁目町内会
ネオ・ハルト(株)
理容ミツキ

○寄付物品

○本部

朝日新聞サービスマスター
ASA大蔵
(有)カインドサービス
さわやか信用金庫
読売センター砧

○砧ホーム

藤間 英治
(株)メリーチョコレート
カムパニー

○砧デイ

サービスマスター
石井 幸子
岩井 美和子

○東京聴覚障害者支援センター

浅川 高文
須賀 一郎
(有)康仙社

○友愛荘

石川 チヨ子
木曾町三家寿クラブ

(株)コンティ
シマヤマデイカル(株)
聖和会
東京冷機(株)
友愛荘家族会
(敬称略)

職員異動

(平成30年12月1日)
令和元年11月30日

○就任

港区立障害保健福祉センター
地域活動支援センター
施設長 小泉 達也

港区立障害保健福祉センター
工房アミ
施設長 村松 徳治

○配置換え

砧デイサービスマスター
センター長 小泉 貴宏

○併任

砧介護保険サービスマスター
施設長 鈴木 健太
港区立障害保健福祉センター
施設部門
統括施設長 村松 徳治

○併任解除

砧デイサービスマスター
センター長 宮崎 浩

砧介護保険サービスマスター
施設長 宮崎 浩

○退任

港区立障害保健福祉センター
参事・施設部門統括施設長・
工房アミ
施設長 神田 市郎

編集後記

新年あけまして
おめでとうございます。

令和最初の年明けを皆様はどのよう
にお迎えでしょうか。本誌「機関誌ゆ
うあい」も、この時代の変わり目に、
本号で第50号目という節目を迎えるこ
とができました。後記ではございます
が、ご愛読を賜ります皆様方に、編集
委員一同、心より御礼申し上げます。
これからも、本誌は新しい元号と共
に、友愛十字会の在る限り、その歩み
を進めて参ります。次号、第51号から
も乞うご期待。



ゆうあい編集委員会 副委員長
砧ホーム・砧介護保険サービスマスター
施設長 鈴木 健太

ゆうあい 第五十号

令和二年一月一日

発行 社会福祉法人 友愛十字会
発行人 金井 博
所在地 東京都世田谷区
砧三丁目九番十一号

電話(03)3416-3164
http://www.yuai.or.jp

表紙写真・東京聴覚障害者支援センター 高橋秀志